

令和6年度 すくすくウォッチ結果考察【概要版】

＜すくすくウォッチとは＞

令和3年度から始まった小学校5・6年生を対象(6年生はわくわく問題のみ)とした大阪府独自の取組み。今年度は4月23日(火)に実施。

子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を活用させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につけることを目的とする。その目的を達成するため、子ども、家庭、学校は、本テストを実施するとともに、テスト及びアンケートの結果や分析等から、以下の取組みの充実に努める。

- 学校…教員が、子ども一人ひとりの学びに対する思いや強み弱みを知り、一人ひとりの実態に合わせた指導を行う。
- 児童…自分の学びをふりかえり自らの強みや弱みなどを知って新たな目標をたて、強みをのばすことや課題を克服すること等に取り組む。
- 家庭…こどもの伸びや課題を知り、子どもを励ます等によって、子どもを支援する。

すくすくウォッチから確認できた成果と課題

成果について

- ☆基礎的・基本的な学力の定着が見られた。
- ☆関連付けて考えたりまとめる問題についてはよくできていた。

課題について

- ☆資料から必要な情報を読み取り、共通点や違う点を捉えて伝える。
- ☆理由や根拠を明確にして伝える。

課題解決に向けた今後の市としての取組み

☆目的に応じて、自分の考えをまとめ表現する

- ① すべての教科で文章を書く取組みを実施
- ② 資料から必要な情報を選び、書き表し方を工夫する場面の設定
- ③ 話し合い活動では、課題や目的を意識しながら、周りの発言と自分の考えを比較したり、整理して考えをまとめる学習活動の設定

☆教科横断的な視点で学習を成り立たせていく授業づくり

- ① 課題解決に向けて、主体的に情報を集めて整理したり、自分の考えをまとめたりする授業の実践
- ② 生活と結び付けて考えたり、活用できる場面の設定
- ③ 学ぶ価値が実感できる場面の設定

☆ICT機器を活用した学習活動の充実

- ① 1人1台端末を活用して他者の意見と比較したり、様々な考えを交流し、自分の考えを再構築したりする場面の設定
- ② シンキングツールを用いて考えを整理し文章の、構成を意識しながら、表現を工夫する場面の設定
- ③ 遠隔合同授業を学校間で実施し、小グループで協働して課題解決を図る場の設定

☆学校全体で組織的に取り組む授業改善

- ① 主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業づくり
- ② 目の前の児童生徒の課題に正対した取組み
- ③ 教育活動全体で言語活動の充実

＜わくわく問題とは＞

○教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題（SDGs、プログラミング的思考）等をテーマにした問題

○文章や絵、図、表、グラフ、ホームページなどを読んで、自分の考えを書くなどの問題

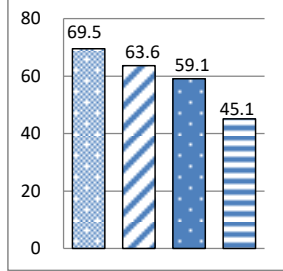
＜わくわく問題の観点＞

○子どもが、多様な他者と協働し、探求的な学習を進め、生きる力を伸ばすために必要な力として、以下の5つの観点到に整理される。

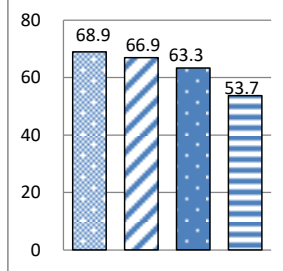
- A：図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる
B：図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。
C：図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。
D：図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。
E：興味・関心のある事柄について、意欲的に工夫して相手に伝える。

わくわく問題の正答率 × アンケート クロス集計から

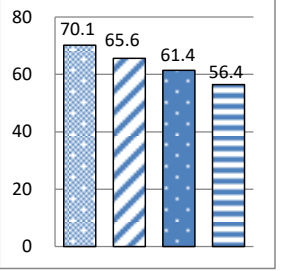
自分の考えをノート等に書いている



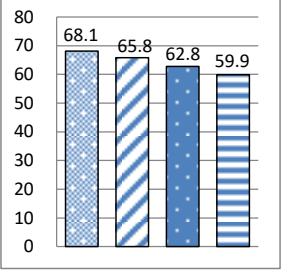
話し合う場面で自分の考えを深めたり、広げたりしている



文章を読むとき、どこが大事なところが考えながら読んでいる



授業で学んだことを、ふだんの生活にいかすようにしている



自分の考えをノート等にかいたり、話し合う場面で自分の考えを深めたり、広げたり、積極的に考えを発言したりしている児童の正答率が高い。また、授業で学んだことを普段の生活に活かすようにしている児童も正答率が高いことがうかがえる。

わくわく問題（教科横断的問題）の状況 【良かった点】

図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて正しく捉えて、自分の考えを文章で書き表す問題にである下記の1（3）について府より正答が高かった。本問題については、普段の授業の中で複数の資料から目的に応じた内容を関連付けて、それをもとに論理的に考え、自分の考えをまとめ伝える学習への取組みが進んでいると考えられる。わくわく問題の「内容を関連付ける力」に関するA～Dの観点別ごとの平均正答率を見ても、昨年度同様、すべての観点において府の平均正答率を上回っていた。

わくわく問題（教科横断的問題）の状況 【課題】

図や表・グラフ・短い文章・会話文等の内容を関連付けて正しくとらえたことをもとに記述式で答える問題について、今回は3問出題されたが、左記の1（3）については府より正答率が高かったが、下記の3（2）については5・6年生ともに府より正答率が低かった。特に正答率の低かった本問題については、資料の内容から必要な情報を読み取り、共通点を見つけて書く内容であることが1つの要因と考えられる。この課題解決に向けて、児童が授業の中で共通点や違う点を捉えたり、条件や目的に応じて説明する時間をこれまで以上に設ける必要がある。

○問題の概要 1（3）

身近な乗り物である「自転車」を題材とし、問題を解いていく中で、現在の自転車の形に至る技術の発展の歴史を学び、さらにそれを未来につなげるよう考えさせる問題。（3）では、身近にある問題点や見聞きした社会的な課題を自分のこととして捉え、解決に向けて何ができるかを考え、文章で書き表す問題。

○問題の観点 B C D

○問題形式 記述式

	正答率	市平均	対府差	府平均
5年生		74.4	3.5	70.9
6年生		82.4	1.6	80.8

○問題の概要 3（2）

日本の伝統食文化の一つであり、児童にも人気のある「すし」を題材とし、「大阪すし」について触れることで、郷土の特徴的な食文化とその伝統の維持への関心を高める機会としてほしい。

○問題の観点 A B

○問題形式 記述式

	正答率	市平均	対府差	府平均
5年生		13	-1.5	14.5
6年生		20.7	-3.2	23.9

(3) ラウラさんたちは、博物館の見学で、学んだことをクラスで発表するための資料を作っています。発表の一つとして、【自転車に関する困りごと】をもとにして、「できたらいいな！こんな自転車！」を考えて、紹介することにしました。



自転車の乗りたいけれど、転んでしまいそうで、乗るのがこわいと思っている人もいるんじゃないかな。
転びそうになるのをセンサーが感知して、自動で元の体勢に戻る自転車があったら、乗るのがこわいと思っている人も安心して乗れると思うな。

【ひかるさんの考えた自転車】

できたらいいな！こんな自転車！

自転車に関する困りごと
自転車の乗りたいけれど、転ぶのがこわいので、乗れない
説明
転びそうになるのをセンサーが感知して、自動で元の体勢に戻る自転車

問い あなたの考える【自転車に関する困りごと】を解決するために、どんな自転車があったらいいと考えますか。

【自転車に関する困りごと】のらんに、どんな困りごとがあるかを書きましょう。また、【説明】のらんに、その困りごとを解決するためにどんな自転車考えたか文章で書きましょう。

※下の自転車の絵は、【説明】を考えたときに使ってもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。



(2) あかねさんたちは、「大阪ずし」と「江戸前ずし」の資料を見つけました。



「大阪ずし」、「江戸前ずし」というのがあるみたいけど、どんな違いがあるのかな。

資料2 【大阪ずし】

「大阪ずし」は大阪で昔から作られてきた「すし」で、様々な種類があるが、最も代表的なものは「箱ずし」である。「箱ずし」は、箱の中に酢飯と具材を重ねて入れ、押し固めて作る。具材は、昔から、魚の他に卵や野菜などを使い、加熱したり、だしや酢、しょう油などで味をつけたりしていた。現在も同様の調理法で作られている。酢飯は砂糖を多めに使い、甘めの味付けにすることが多い。



資料3 【江戸前ずし】

「江戸前ずし」は昔の東京で始まった「すし」で、酢飯の上に具材をのせてにぎった「にぎりずし」を中心とした「すし」のことをさす。具材は主に魚を用いる。現在は生のものが多いが、昔はだし、酢、しょう油などで味をつけたり加熱したりしたものも多かった。酢飯はあっさりとした味にすることが多い。



問い 次の【表】は、あかねさんたちが資料2と資料3の内容をまとめているものです。

部①と②の内容は【表】のAからカのどこに書くといでしょう。それぞれ1つずつ選びましょう。

また、【表】の③にあてはまる内容を文章で書きましょう。

【表】

	大阪ずし	江戸前ずし
誕生した場所	大阪	東京
代表的なもの	箱ずし	にぎりずし
作り方	A	E
具材	種類	I
	昔の調理法	O
＜共通点＞		
③		
酢飯の特徴	ウ	カ